2022年度 紙パック回収率

牛乳パックのリサイクルは

「洗って、開いて、乾かして」

2022年度の紙パック回収率は38.7%でした。

紙パックリサイクルに関する情報を関係者や社会に提供するため、1995年から実施している「飲料用紙容器リサイクルの現状と動向に関する基本調査」が、2023年も6月～10月に実施され、2022年度のリサイクル状況が明らかになりました。

2022年度の紙パック全体の回収率は38.7%（前年度から0.1ポイント減）、使用済紙パック回収率は29.4%（同0.1ポイント減）となりました。

なお、紙パックとしてではなく、他の古紙として回収された後に紙パックとして選別されてリサイクルされていても回収量に計上されていないものがあり、この推計回収量を含めると、紙パック回収率は39.6%、使用済紙パック回収率は30.5%となります。

※2022年度実態調査では、紙パックメーカー8社・飲料メーカー250社・市区町村1,741・小学校1,920・スーパーマーケット等1,104・市民団体および福祉施設22・製紙メーカー23社等をアンケート調査対象とし、あわせてヒアリング調査を実施しました。なお、福島原発事故の影響により一部地域について実施を控えていましたが、本年度調査からすべての市区町村を対象としています。
※「産業損紙・古紙」とは、紙パック製造工場や飲料工場で発生した損紙や古紙をいいます。
※「損紙」とは紙パック製造工場や飲料工場で飲料充填前に発生した端材などを、「古紙」とは飲料充填後に発生した紙パックをいいます。また、「使用済紙パック」とは、家庭、学校、店舗、事業所などで飲み終わった紙パックを指します。

2022年度の紙パック回収率

紙パック回収率（産業損紙・古紙を含む）

38.7%

（2021年度 38.8%）

＝国内紙パック回収量÷紙パック原紙使用量
＝80.6千トン ／ 208.5千トン

使用済紙パック回収率（使用された紙パック）

29.4%

（2021年度 29.5%）

＝使用済紙パック回収量÷飲料メーカー紙パック出荷量
＝53.2千トン ／ 180.8千トン

参考 他の古紙への混入や再活用を反映した回収率

使用済紙パックのうち、他の古紙として回収され、紙パックとして選別・資源化されながらも回収量に計上されていないものが1.9千トン、使用済紙パックのうち、まな板などに再活用された後に廃棄されるものが約9.7千トンあると推計されています。前者を分子に加え、後者を分母から控除したときの回収率は次のようになります。
紙パック回収率＝41.5%、使用済紙パック回収率＝32.2%

市町村回収や集団回収の紙パック取引価格が上昇しています。

紙パック古紙は、紙の繊維が長く強いことなどから、良質の再生紙原料であり、高値で取引されています。

紙パックの取引価格は、自治体ごとに決め方がさまざまなので、標準的な価格を出すのは困難です。ここでは紙パック単独の価格で、資源価格以外の条件がついていない取引を対象に、相手先別に、相手先に来てもらう引渡価格と、相手先へ持ち込んだときの持込価格に分けて、市町村回収（東京特別区の回収を含む）と集団回収の価格を集計しました。

これらの回収の主な取引先は古紙回収業者と古紙原料問屋です。市町村回収の取引価格をみると、古紙回収業者への引渡で0.8円上昇したのをはじめとして、すべての取引で価格が上昇し、平均では0.9円の価格上昇となりました。また、集団回収も引渡、持込ともに価格が上昇し、平均では0.2円の価格上昇となりました。

紙パック古紙の平均取引価格

年度			2019	2020	2021	2022
市町村回収	古紙回収業者	引渡価格	6.6	4.2	4.3	5.1
		持込価格	7.0	4.7	4.4	5.0
	古紙原料問屋	引渡価格	8.3	5.1	5.5	6.7
		持込価格	9.0	5.7	5.9	7.4
	再生紙メーカー	引渡価格	6.4	4.7	4.1	6.4
		持込価格	10.0	10.1	8.2	11.0
	平均価格		7.6	5.0	4.9	5.8
集団回収	取引先不問	引渡価格	4.7	3.7	3.7	4.0
		持込価格	5.3	4.0	4.8	5.0
	平均価格		4.8	3.8	4.1	4.3

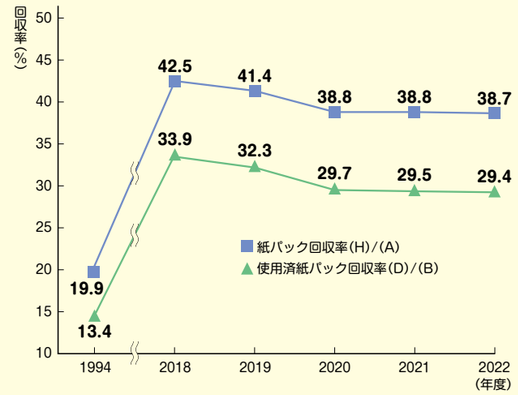
（円／kg）

2022年度の紙パック回収量は80.6千トンでした。

国内紙パックの回収率は、右の図のように推移しています。回収量と回収率の詳細は下の表のとおりです。

2022年度の国内紙パック回収量は、前年度より1.4千トン（1.7%）減少した80.6千トンでした。紙パックメーカーの損紙など、産業損紙・古紙の回収量は前年度から0.4千トン減少しました。使用済紙パックでは学校給食の増加に伴って事業系回収量は微増しましたが、家庭系回収量が減少し、全体では前年度から0.9千トン減少しました。回収量が減少した一方で、原紙使用量は2.8千トン、出荷量は2.3千トン減少しています。その結果、紙パック回収率、使用済紙パック回収率ともに前年度から0.1ポイントの微減となりました。

紙パック回収率の推移



主要データの推移（単位:千トン）

区　分		1994	2018	2019	2020	2021	2022	対前年度
飲料用紙パック原紙使用量(A)		216.0	223.0	216.6	216.9	211.2	208.5	−1.3%
紙パックメーカー産業損紙発生量		16.5	27.3	27.1	26.4	26.2	25.4	−3.2%
飲料メーカー産業損紙等発生量		−	2.2	2.3	1.9	1.9	2.3	+21.6%
飲料メーカー飲料用紙パック出荷量(B)		197.9	193.3	187.0	188.7	183.1	180.8	−1.2%
家庭系(C)		168.7	171.4	165.3	167.8	160.9	158.0	−1.8%
事業系出荷量		29.2	21.8	21.7	20.9	22.2	22.8	+2.6%
学校給食		10.7	12.1	11.6	11.9	13.1	13.3	+1.7%
飲食店等		18.5	9.7	10.1	9.0	9.1	9.4	+3.9%
使用済紙パック回収量(D)＝(E)＋(F)		26.5	65.5	60.4	56.1	54.1	53.2	−1.7%
家庭系(E)		25.9	54.8	50.9	48.5	46.8	45.6	−2.6%
店頭回収		13.8	27.9	28.0	27.5	26.5	25.6	−3.4%
市町村回収		4.3	11.3	10.8	10.6	10.3	10.0	−3.1%
集団回収等		7.8	15.7	12.2	10.3	9.9	10.0	+0.3%
市町村登録団体等		7.8	7.6	7.0	5.6	5.4	5.3	−1.7%
古紙原料問屋による独自回収等		−	8.1	5.1	4.7	4.5	4.6	+2.6%
事業系(F)		0.6	10.6	9.5	7.6	7.3	7.6	+3.8%
学校給食		0.6	8.6	7.6	5.7	5.5	5.8	+6.1%
飲食店等		−	2.0	1.9	2.0	1.8	1.8	−3.2%
産業損紙・古紙紙パック回収量(G)		16.5	29.3	29.2	28.0	27.9	27.5	−1.6%
紙パックメーカー		16.5	27.3	27.1	26.4	26.2	25.4	−3.2%
飲料メーカー		−	2.0	2.1	1.6	1.7	2.1	+22.9%
国内紙パック回収量(H)＝(D)＋(G)		43.0	94.7	89.6	84.1	82.0	80.6	−1.7%
紙パック古紙輸入量		−	19.4	12.9	13.1	12.0	12.8	+6.4%
紙パック総受入量		43.0	114.2	102.5	97.2	94.1	93.5	−0.6%
紙パック再資源化量		30.1	86.0	77.0	75.5	75.2	75.4	+0.3%
回収率	紙パック回収率(H)/(A)	19.9%	42.5%	41.4%	38.8%	38.8%	38.7%	−0.1ポイント
	使用済紙パック回収率(D)/(B)	13.4%	33.9%	32.3%	29.7%	29.5%	29.4%	−0.1ポイント
	家庭系使用済紙パック回収率(E)/(C)	15.4%	32.0%	30.8%	28.9%	29.1%	28.8%	−0.3ポイント

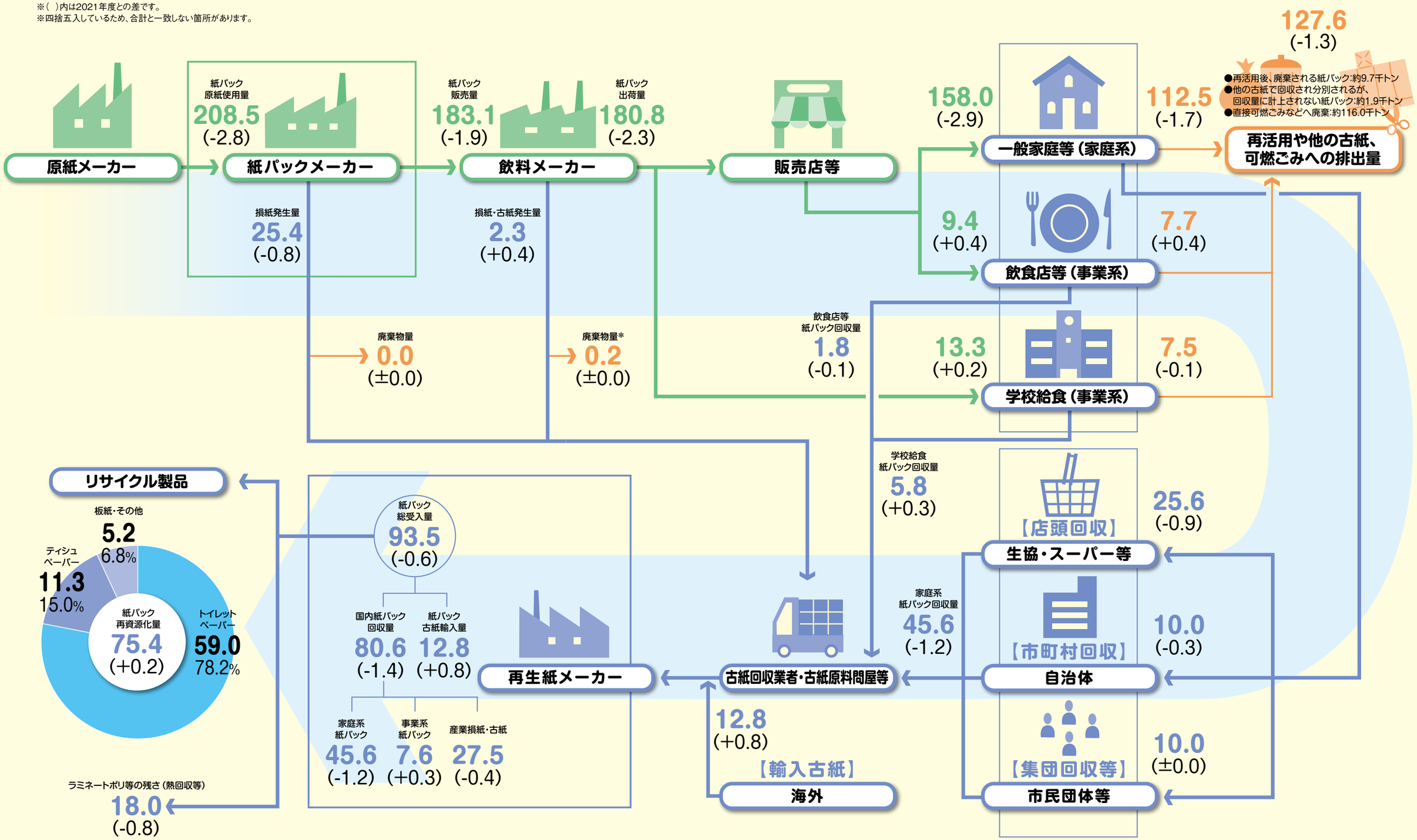
※紙パック再資源化量＝紙パック総受入量×歩留。歩留は、2001年度以降についてはアンケートにより求めています。
※1994年度の産業損紙発生量にはアルミ付き紙パックを含みます。
※100トン未満を四捨五入しているため、合計が合わない箇所があります。また、同じ理由により表中の数値から回収率や前年度比を計算すると合わない箇所があります。

2022年度 紙パックマテリアルフロー

牛乳パックをリサイクルすると
CO_2が削減できます

2022年度の紙パックリサイクルの全体像をマテリアルフローで示したものです。

※単位：千トン
※( )内は2021年度との差です。
※四捨五入しているため、合計と一致しない箇所があります。



＊廃棄物量には熱回収されるものも含む。